

(国際金融セッション)

『貿易統計』を利用した契約通貨の検証
—独占的競争モデルに対する2国間品目別貿易の実証—

大野正智 (福島大学)

2007年7月

要旨

東アジア域内貿易において、米ドルが契約通貨として利用されているケースが多い。このことは、輸出入国双方にとって、両国間の為替レートでなく、それぞれの対ドルレート変動が、貿易収支や物価の変動要因になることを意味する。対日貿易に限定した場合でも、ドル建て取引が行われているケースが多く、「円の国際化」の可能性を考える上でも、貿易における契約通貨の状況とその決定要因を探ることは重要である。本文では財務省の「貿易統計（通関統計）」を利用し、韓国からの輸入を例に商品ごとの契約通貨の状況を検証する。貿易契約通貨の決定に関する理論では、2国間貿易における輸入国の商品市場ごとの特性に応じて、どの国の通貨で契約価格が決定されるかを論じている。したがって、理論的な考察を可能にする上でも、商品別に契約通貨の状況を調査する意義は大きい。一方、2国間で商品ごとの貿易状況は、「貿易統計」において公表されている。しかし、この統計は円建てで表示されていることから、まずは、「貿易統計」から円建て以外の契約通貨を検証する方法を提案する。そして、その結果と理論モデルとの整合性を検討する。

JEL Classification: F41; N15; F14